

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4670200445		
法人名	医療法人 杏政会		
事業所名	グループホーム そら		
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号		
自己評価作成日	平成23年5月31日	評価結果市町村受理日	平成23年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/koreisya/zigyosya/kohyo.html">http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/koreisya/zigyosya/kohyo.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成23年6月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症専門の施設として安心・安全な施設作りを目指し、日々取り組んでいます。職員は利用者へゆっくりと一緒に、笑顔あふれる生活を提供しています。利用者とのコミュニケーションとして、毎日、利用者との握手や毎朝の化粧に仕組み、職員と利用者間だけでなく、利用者同士の会話が増え、明るく笑顔が絶えません。また、噛んだり、飲み込む機能の低下された方の食事はむやみに刻まず、食材の持ち味、特性を生かしながら、切り方を工夫したり、柔らかく調理し、味はもちろん、見た目からも普通の食事と変わらないように配慮しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

新幹線を眺めることが出来る川内駅近くに位置し、デパートや商店など利便性の良い環境にあるホームである。利用者・家族、管理者・職員間の信頼関係が構築しており、理念に掲げている「安心・安全」「その人らしさ」を念頭に、利用者により良いサービスを提供できるように取り組んでいる。職員は、利用者との握手や身だしなみの一環として利用者にも化粧を取り入れるなど生き生きと笑顔あふれる生活を実現している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はBS法を用い全職員で話し合い決めたもので、朝の申し送り時に読み上げています。	全職員で作り上げたホーム独自の理念を毎朝、申し送り時に唱和し共有している。理念を玄関やリビングに掲げ、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長と協議の上、代表者名で自治会に加入しています。近所の商店や薬店、公園に利用者と訪れたり、ボランティアも積極的に受け入れています。	自治会に加入し、地域行事(はんや祭り・田植え祭)の参加やボランティア(ハーモニカ・三味線演奏)の来訪、託児所の子供達との交流を図っている。近隣の店や公園へ出かけ、地域の方への挨拶や声掛けにより関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の介護老人保健施設と共同で、家族介護教室や感謝祭(利用者の作品展等)を開催し、認知症の地域理解への働きかけを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員や市高齢・介護福祉課担当者、大学教授、地域福祉アドバイザー、ご家族の参加をいただいています。会議で出た意見・要望は検討し、今後の運営、ケアサービス改善に生かしています。	多くの参加者の意見を取り入れ、併設施設の理学療法士協力の下、「ホームそら体操」を作りサービス向上に活かしている。事業所の入居者状況・行事報告等については、議事録によく記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議出席をいただく他、管理者は市の介護保険サービス提供事業者連絡会の幹事をしており、現場の実情などを伝え、助言をいただく機会を作っています。	ホームは、運営推進会議や事業者連絡会時に市介護保険担当者と連絡を取りながら円滑な交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、拘束ゼロ維持に向け努めています。周辺の不審者情報もあり玄関を施錠していますが、外に出て行こうとする雰囲気を感じたら一緒に外出する等、自由な外出の妨げにならないようにしています。	3ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開催し、事例検討・研修を行っている。職員もよく理解してケアに努めている。ホームは、玄関を利用者の安全確保の観点から、家族の了解を得て施錠しているが、外出希望者には、職員が付き添い自由に出かけられるように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法は毎年併設の介護老人保健施設と共同の勉強会を実施し、学習しています。(毎年8月に実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、併設の介護老人保健施設と共同の勉強会を実施し、学習しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居いただく際、事前に管理者、事務担当者より説明を行なっています。また、利用を希望する方には実際に来訪いただき、雰囲気味わっていただく事をお勧めしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、いつでも投函できるようにしているほか、行事実施後の交流会の場や、毎年直接ケアに当たらない職員が聞き取りによるアンケート調査を実施しています。	ホームは、家族会や行事参加時に家族へ要望を聞いている。同法人の管理課長を相談窓口の一つとして、家族へ説明している。毎年、利用者アンケート調査を実施し、意向を引き出す工夫をしている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が参加する職員会議、代表者と管理者が参加する運営会議の場において、職員からの提案・検討が行える体制を整えています。	代表者・管理者は、月1回の職員・運営会議や業務時に職員の意見を聞ける場を設けている。夜間の利用者急変時対応については、併設施設の看護師の協力体制を確立するなどケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務においては担当制としていますが、業務量が過多にならないよう業務分担の配慮をする他、資格取得推進の為各種手当の支給や、自己研鑽の支援も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で、毎月内部研修を実施する他、苑内発表会や外部より講師を招いての認知症学習会を行いました。外部研修や発表会への参加機会を設け、職員のケアの質の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他施設からの実習の積極的な受け入れや地域のGH協議会加入等により交流の機会を設け、意見交換等の活動を通してサービスの向上に繋がるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての環境における生活に対する不安は、強いものである事を全職員が理解しており、利用される前に出来るだけ多く来訪いただけるよう、ご家族に求めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用における家族からの情報の重要性を全職員が理解しており、入居後も、本人と家族との良好な関係が保てるよう、積極的に相談に応じています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、入居の可否に関わらず、その時に必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決への支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での活動は職員との共同作業を原則とし、個々の状況に応じて参加いただいています。その際、スタッフは「これでいいですか」と教えていただく態度で接し、感謝を忘れず対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族は重要な存在として、日常生活について電話や広報誌でお伝えする他、食事会等の家族参加行事の実施、面会や外出の推進を通じて、接する機会が増えるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新田神社、寺山公園、川内川等馴染みの場所へのドライブや散歩、早馬祭やはんや祭等地域行事の見物、友人・知人の方の訪問の推進等、馴染みの関係が続くよう支援しています。	入居時に馴染みの場所や人との関係について把握している。ホームは、馴染みの場所や地域行事へ出かけたり、友人や家族等への面会の呼びかけや利用者の「自宅へ帰りたい」など家族の協力のもとに支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて利用者同士に会話があり、お互いに褒め合い、気遣い、手助けされたり、感謝したり支え合う関係が出来ていますが、職員が日常的に関わりトラブルが起きないように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に来訪いただけるよう声を掛けています。また、退居先の病院・施設等への面会や訪問を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中から、一人ひとりの思いや意向を言葉や表情、行動から把握し、毎朝の申し送り時に出し合い、話し合うなど情報を共有し、ケアの統一を実践しています。	家族からの情報や職員の日々のケアサービスの関わりから声かけし表情から思いや気付きの把握に努めている。又、申し送りやカンファレンスで話し合い、職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の会話の中での情報はもちろんの事、家族や親戚、友人・知人の方にもプライバシーに配慮しつつ、情報を共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが個人録や申し送りノート、業務日誌等の文書や、職員会議やケアカンファレンスの場を活用し、日々の「気づき」をその場限りにせず、職員間で共有出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、職員が出席した場で定期的に話し合いが行なわれ、必要に応じて臨時開催や医師、併設施設PTなど事前に意見を貰っています。本人・家族と検討し、承諾を経て決定されます。	モニタリングは、3ヶ月毎に全職員でカンファレンス時に行っている。変更時は、医師や併設施設の理学療法士などの意見を踏まえ介護計画を作成し、利用者・家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人録へ記入しており、ケアプランの実践状況については、所定の記録用紙を活用しています。毎日の申し送りや、ケアカンファレンスの場で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域医療機関の協力のもと、定期的な訪問診療の実施、併設施設PTによる生活リハビリの助言をいただくなど柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設の趣味サークルの場への参加やハーモニカボランティアの方の定期訪問、地域の喫茶店の利用や職員と買い物への外出等行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、これまで利用されていたかかりつけ医の利用していますが、遠方等利用が困難な場合は協力医療機関を紹介しています。受診の際は職員だけでなく必要時家族も同伴し、状態報告を行なっています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医になっている。受診結果についても家族・病院・事業所の連携がとれている。受診支援は原則、家族としているが、必要に応じて職員の付き添いも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、日常の健康管理をサポートしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居されていた方が入院された際は、努めて病院へ出向き情報提供を行っています。必要に応じ、病院関係者との相談も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、入居中の方で重度化、終末期ケアの対象となる方はいらっしゃいませんが、入居者の今後については早い段階から本人や家族と話し合っており、入居継続の判断は、かかりつけ医や協力医療機関の医師にお願いしています。	重度化、終末期のケアについては、入居時より本人や家族と話し合い、ホームとしての体制を口頭で説明している。ホームは、入居継続について、医師の判断を仰ぎ、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には対応マニュアルに沿って実施することとしており、実践の為に、毎年9月に対処法の勉強会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成23年スプリンクラーを設置しました。ホーム独自で避難誘導訓練を実施する他、併設施設と共同で消火訓練や夜間呼び出し訓練を実施しています。災害時に備え、食料・飲料水・排泄用品を備蓄しています。	自主訓練や併設施設と共同で消火訓練や夜間呼び出し訓練を行っている。ホームは、自治会長を通じて、地域住民の協力についても呼び掛けている。平成23年3月にスプリンクラーの設置や併設施設と共同で備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営母体と一体で個人情報保護に努めています。(公開の事前確認、イニシャルによる記載、書類の持ち出し規制等)言葉掛けや対応は、1月の勉強会や「身体拘束廃止委員会」で学習、検討しています。	職員は、認知症やプライバシーについての研修をしている。ホームは利用者の意向に添いながら、入浴・トイレ介助時のプライバシーを損ねない声かけや接し方に努めている。個人情報保護の勉強会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てのケアについて利用者に、その都度意思の確認や希望の聴取を行っています。(飲み物、外出希望、衣類の選択等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の生活スタイル(起床・食事・外出等)を把握し、それに基づいて、利用者のその人らしい生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、ご家族の希望に応じて髪型・服装・化粧の支援を行なっています。理・美容については、本人の希望にて利用先を選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、食事、後片付けまで職員と利用者が一緒に行っています。食事は庭で育てた野菜を見て、手入れして、収穫まで関わりながら、より興味を持っていただけるよう工夫しています。	利用者は、下準備・味付け・盛り付け等職員と共に行っている。自家菜園の旬の食材を活かしたり、誕生日には、利用者の要望をメニューに取り入れている。見た目や普通食と変わらない食事提供を心がけ工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は管理栄養士が作成しています。食事や水分摂取量は毎日表に記入すると共に、摂取量の確保に向け、個別に工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	代表者と職員は口腔清潔の重要性を認識し、毎食前の口腔体操、毎食後の口腔ケアの実施の他、勉強会の開催、歯科医師による歯科往診を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとに排泄状況を確認・記録し、把握した排泄パターンに基づいた定時誘導の実施、訴え時の速やかな排泄介助等で個別にトイレやポータブルトイレでの排泄を支援しています。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレへの声掛けや誘導を行っている。又、職員は排泄パターンを活かしながら自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに排泄状況の把握に努め、排泄表に記録し便秘の早期発見に生かしています。便秘予防の取り組みとして、毎日の体操や散歩の実施、水分摂取量の確保を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の体調・発汗などを考慮し、本人の希望に応じて入浴出来るよう努めています。	利用者の体調・希望等に添って実施している。入浴拒否の利用者には、手紙を渡して誘導し定期的に入浴が出来る。カラーゲン入り入浴剤を使用し、入浴が楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの1日の生活リズムや体調、睡眠状態、活動状況に応じて適切に休息が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が情報を共有出来るよう、申し送りノート、お薬手帳等を活用する他、状態把握に努め、服薬の疑問点は医師以外に相談できる調剤薬局があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や活躍された事、楽しみ事を職員間で共有しチームとして日々の生活の中で引き出せる場面を多く作れるよう努めています。(ピアノ演奏、調理、裁縫、草取り、歌の披露等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物、ドライブ等実施しています。日常的に出かけられない場所には、行事を企画したり、家族に外出の協力をお願いしています。	天気の良い日はベンチや椅子で日光浴をしたり敷地内を散歩している。本人の希望に応じて、墓参り・神社やふるさと訪問・行きつけの美容室など家族の協力をもらい外出の支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理方法は事前に本人や家族と話し合っており、個別に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話を掛けていただく他、電話を掛けて差し上げたり、手紙が書けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や温度・湿度計を確認しながら、テレビの音量や照明、空調や換気の調整を行っています。共有空間には季節の草花や飾り物、利用者作品などが置かれ、生活感を演出しています。	ホームは、温度・湿度の測定や換気調整を行い、利用者の体調管理に役立てている。生け花やあじさいの創作品・習字・写真・手作りカレンダーなどが飾られ、季節感の工夫をしている。多くのソファが配置され、利用者は、気の合う同士が座りくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はリビング、食堂わかれ、テレビを見る方、塗り絵や箱折りする方、花の水替えする方、利用者同士おしゃべりする方など一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族に馴染みの家具や生活用品の持込をお願いしています。居室には遺影や思い出の写真、使い慣れた鏡などが飾られ、写真にお水をあげたりされています。	家具・椅子・遺影・家族写真・鏡など個人の思い思いの品々を持ち込むように家族へ働きかけている。居室の掃除は、利用者と共に職員が行い、居心地良く過ごせるようにしている。利用者の希望により、畳み部屋やフローリング、洋室に使用できる置き畳の工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下に応じた手すりやスロープの設置、認識し易い部屋の表札、目印の紙花、浴室の暖簾など、家庭的でありながら安全に活動出来るよう工夫しています。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている			

自己 評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している			